

審査結果の要旨

報告番号	甲 第 1183 号	氏名	辻 吉保
審査担当者	主査 赤木 由人 (印) 副主査 山本 宏一 (印) 副主査 島村 拓司 (印)		
主論文題目： 大腸がんスクリーニングにおける便中ヘリコバクター・ピロリ抗原検査の有用性			

審査結果の要旨 (意見)

大腸癌は自覚症状があまりなく発見された時点ですでに進行しているということはよく経験する。一方がん検診によるスクリーニングでのがん患者の拾い上げ、とりわけ早期癌の発見は被験者のみならずがん医療対策の点からも重要である。本研究は大腸癌の一次検診に用いられている便潜血検査にヘリコバクター検査を加えることが、大腸がん発見の効率化、2次検診への啓蒙、医療費を抑制につながる可能性を示唆したものである。医療費が年々増大する現代の日本社会において予防医学や早期発見は重要な課題であり、その具体的な対策の一つとして期待のできる結果であると評価できる。本研究における対象者はやや偏りがあること、検査は安価ではあるものの費用対効果についてはさらなる検討が必要と考えられるが、大腸がん検診の精度向上に寄与する意義ある研究である。

論文要旨

大腸がん検診は便潜血検査 (FOBT : Fecal Occult Blood Test) による科学的根拠にも拘わらず、精検受診率は低い水準にある。受診率向上の根拠を強化するため、リスクの層別化など統一された大腸がんスクリーニングの策定が期待されており、ハイリスク群抽出のため、腸液 pH や便中ヘリコバクター・ピロリ抗原 (便中 HP 検査) と大腸腫瘍性病変との関連性を調べ、効率的なスクリーニング検査となりうる指標か検討した。単変量分析により大腸腫瘍性病変の陽性率と有意に関連した要因は性、年齢、FOBT、便中 HP 検査であった。多重ロジスティック回帰分析では、調整にの結果、便中 HP 検査だけは独立して有意に関連していた (オッズ比 2.71、95%信頼区間 1.27-5.95)。FOBT と便中 HP 検査結果の組合せにおいて2つの検査がともに陰性の組合せを基準とすると、FOBT (+) / 便中 HP (-)、FOBT (-) / 便中 HP (+)、FOBT (+) / 便中 HP (+) で腫瘍性病変が陽性となる各オッズ比は、それぞれ 1.91 (95%信頼区間 0.82-4.51)、3.19 (95%信頼区間 1.71-6.08)、6.54 (95%信頼区間 3.15-14.42) であり、便中 HP 菌のみ陽性や両検査ともに陽性の場合には有意差を認めた。大腸がんのスクリーニング検査として2つの検査を組合せることの有用性が示唆され、全大腸内視鏡検査につなげる根拠となる指標として確立されることが期待される。